

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 箕川未来協議会

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：114180人、将来：107642人（2030年）、96987人（2045年）
（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））※東近江市

②具体的な取組 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- 絶景銘水カフェ（地域おこし協力隊）
- 地域資源シェア<キャンプ場・工房>サービス（地域おこし協力隊・協議会・新法人・地域事業者）
- 一棟貸しホテル事業（地域おこし協力隊・協議会・新法人・地域事業者）
- エコツアーの実施（協議会・観光協会・旅行会社）
- 法人の設立（協議会・地域住人・地域事業者・支援者）



③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	実績値 (2023年度末)	単位
環境	空家が減少する	空家が目的の為に使用される	0	2		軒
	森林が利用される	森林活用事業者の雇用数	0	1		人
経済	地域外から稼いでくる	地域シェアサービスの会費	0	2		百万
	地域外から稼いでくる	カフェの売上		1		百万
	財源が充実する	寄付金額	0	1		百万
社会	仲間づくり	地域シェアサービスの会員	0	25		人
	仲間づくり	Iターン・Uターン者数	1	2		世帯
	仲間づくり	カフェの来客者数	0	1,000		人
	仲間づくり	イベント実施回数	10	12		回

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

●人間らしい感動を味わえる里

- 当地域は、山と川に囲まれた4haほどの範囲に、約30件の建物（民家や社寺）がまとまって存在する、小さな集落である。山に囲まれた景観は、日本の原風景を感じさせる。どこにいても聞こえる川のせせらぎが自然の中にいることを感じさせる。故郷を感じる雰囲気、訪れた人が「こんな地域が、今の社会に残されていてよかった」と口にしてしまうような地域にしたい。箕川町は集落が小さくまとまっているので、それほど大きな額でなくてもうまく投資すれば、コンセプトを持った地域として輝く。1000年以上、人の暮らしの営まれてきた地域を失いたくない。すべての古民家が活用され、暮らせる水準以上に保つ。訪れた人は景観に心が洗われ、地域の持っているビジョンに勇気づけられる。過ごす時間を楽しみ、過ごした思い出に励まされる。自然のあるフィールド、そこにある資源の利用。身近な環境から得られるもので豊かな時間を過ごす創意工夫。創造的な時間は、人にとって本質的な喜びである。この地域に関わり続けることで、地域の変化を目の当たりにし、
- 血縁関係ではないけれど、故郷のような、親戚のようなそんな関係が生まれる。人にとって本質的なものがあり、感動できる地域として、確かなサービスが行われ、たくさんの人が行き来する。いずれ、この地域では受け入れられないくらいの人の行き来が生まれ、ビジョンを同じくする地域と交流し、その輪を広げていく。



④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	空家が減少する	空家からの活件数	0	2	2030年度	7	軒
					2050年度	27	軒
	森林が利用される	森林活用事業者の雇用数	0	0	2030年度	5	人
経済	地域外から稼いでくる	地域シェアサービスの会費	0	2	2030年度	3	百万
	地域外から稼いでくる	カフェの売上	0	1	2030年度	3	百万
	地域外から稼いでくる	宿泊施設の売上額	0	1	2030年度	50	百万
	財源が充実する	寄付金額	0		2030年度	3	百万
社会	仲間づくり	地域シェアサービスの会員	0	25	2030年度	50	人
					2050年度	100	人
	仲間づくり	Iターン・Uターン者数	1	2	2030年度	6	世帯
					2050年度	15	世帯
	仲間づくり	カフェの来客者数	0	1,000	2030年度	3,000	人
	仲間づくり	宿泊者数	0	0	2030年度	360	人
仲間づくり	イベント実施回数	10	12	2030年度	18	回	

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

今年、この地で稼いで自立できる事業は何かということ真剣に考えた。できることでも、事業としての自立が難しいと思われるもの（お茶畑の活用・商品開発から道の駅などでの物販）は、一度考えの外に置くことにした。短期目標として、まずは仲間が集まる活動を行うカフェのオープンと、地域シェアサービスの開始である。少ない投資でサービスが始められる。人と繋がる場合は求めるだけでなく、提供できるものがあることが重要である。年間を通すと百万円以上の売上が期待できる事業である。仲間を広げるためにビジョンをちゃんと伝えられるようにする。箕川の事業はビジョンをちゃんと伝えることができれば寄付収入も期待できる。小さくても事業が始められること、その事業が元手以上に稼ぐこと。利益が生活を支えられること。それができれば、繰り返すことで少しずつ活動は大きくなっていき、長期目標の達成に繋がる。空き家からの活用については1年1軒ペースをイメージした。27年ですべての空き家が活用されることになる。空き家の活用が増えれば、それを使う人、そこに暮らす人の増加に繋がり、長期目標の達成に繋がる。人が増えるとできることが増え、仲間となる人や地域が増えていく。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください